水稲「つや姫」の特性と栽培のポイント（H24版）

１．来歴

1998年に山形県立農業試験場庄内支場（現在の山形県農業総合研究センター水田農業試験場）において、「山形70号」を母、「東北164号」を父として人工交配を行い、その後代から選抜育成された。

２．品種特性

・出穂期および成熟期は「コシヒカリ」とほぼ同等の極早生品種である。
・草型は“中間型”で、葉が直立し受光態勢が良好である。
・稈長は短く、「コシヒカリ」より耐倒伏性が非常に優れる。
・収量性は「コシヒカリ」とほぼ同等で高い。
・玄米の外観品質は「コシヒカリ」に比べて良好で、光沢が優れる。
・食味は“上”で、「コシヒカリ」と同等に優れる。
・葉いもち圃場抵抗性は“中～やや強”で、「コシヒカリ」に比べ強い。
・穂いもち圃場抵抗性は「コシヒカリ」と同等で弱い。
・穂発芽性は“やや難”で、「コシヒカリ」並かやや劣る。
・高温登熟性は“中”で、「コシヒカリ」に比べて優り、白未熟粒の発生が少ない。

【つや姫の特性表】

項　　目	つ　や　姫	コシヒカリ
出穂期（月日）	７．２９	７．３０
成熟期（月日）	９．０３	９．０３
稈長（ｃｍ）	７３．９	８５．４
穂長（ｃｍ）	１８．４	１９．２
穂数（本／㎡）	３５３	３３８
草　　型	中間	中間
倒伏程度	０．０	１．９
穂発芽性	やや難	やや難～難
葉いもち抵抗性	中～やや強	弱
穂いもち抵抗性	弱	弱
高温登熟性	中	やや弱
収量（ｋｇ／１０ａ）	５６８	５７２
玄米千粒重（ｇ）	２２．７	２２．９
玄米外観品質	４．２	５．２
食　　味	上	上

注）①水稲奨励品種決定調査成績（H21～H23）の３年間平均値
②いもち病抵抗性及び穂発芽性は中山間地域研究ｾﾝﾀｰ成績を含む
③倒伏程度は０（無）～５（甚）の６段階
④玄米外観品質は１（上上）～９（下下）の９段階で評価

３．栽培管理のポイント

【重要】特別栽培米基準に準じた栽培管理を行うこと

①化学肥料の窒素成分量の合計が慣行の5割以下となること

４kg／10a以下　　（慣行基準　8kg／10a）

②節減対象農薬の使用回数(成分)の合計が慣行の5割以下になること

１０回(成分)以下　　（慣行基準　２０回(成分)）

◎栽培期間は前作物の収穫以降から当該農産物の収穫調製までの期間

(1)普及適用地域
　県内平坦地域

(2)栽培適期
　早植栽培（５月上～中旬移植、９月上～中旬収穫）に適する。

(3)土づくり
　堆肥等有機物や土づくり資材の施用、深耕、稲わらの腐熟促進対策に努める。

(4)育苗
・種子消毒剤や温湯消毒による種子消毒を行う。
・浸種は、積算水温で１００℃を目安とする。
・催芽は、３０～３２℃で２４時間程度を目安とし、鳩胸状態を確認する。
・１箱当たりの播種量は、乾籾で１２０ｇとする。
・育苗中は温度管理を適正に行い健苗育成を心掛ける。

(5)移植
・移植時期は、５月上旬～中旬頃を適期とする。
　この場合、出穂期は７月下旬～８月上旬、成熟期は９月上～中旬頃となる。
・栽植密度は、１８～２１株／㎡（株間１６～１８cm、条間３０cm）とする。
・１株植付本数は、３～４本／株
・極端な浅植や深植は避ける。

(6)施肥管理
①施肥の目安（ｋｇ／１０ａ）
◆総窒素施用量　　６．０～７．０
（但し、化学肥料の窒素成分量の合計　４．０以下）

◇基　肥：窒素成分量	３．０～４．０
◇穂　肥：窒素成分量	３．０
・第1回目（出穂前25～20日前）	１．５
・第2回目（出穂前15～10日前）	１．５

※地力や省力化など地域実態を考慮し、施肥量を調整する。

②有機質肥料を施用する場合は、肥効を考慮して施用時期は早めに行う。

(7)農薬散布（雑草防除、病害虫防除）
　必要最小限の防除にとどめ、農薬使用の縮減に努めること。
（但し、節減対象農薬の使用回数（成分）合計　１０回以下）

①雑草防除
・除草剤を使用する場合は、雑草の発生状況をみて適期に散布する。

②病害虫防除
・地域の病害虫発生状況を考慮して、効率的な防除計画をたてる。
　ただし、病害虫が多発した場合は、農薬の使用回数に注意して適切な防除を行う。

(8)水管理
・過繁茂を防ぎ健全な根の発育を促すため、間断かん水や中干しを徹底する。
・出穂後２５～３０日頃までは間断かん水とし、早期に完全落水をしない。
・その他は基本的な水管理を徹底する。

(9)刈取
・刈取時期は、青味籾率１０～１５％になった時を適期とする。

(10)乾燥・調製
・乾燥は、胴割米の発生に注意し、水分１５％に仕上げる。
・ライスグレーダー等による適正な調製を行う。